

「STOP!生活保護基準

準引き下げ」アクション

いのちと尊厳を守る

中村 順

生活保護制度に関しては、「市民の意見」読者の皆様にとって幸いなことに、2013年4月1日号（137号）に恰好の入門記事が掲載されています。《生活保護制度改革を考える》和久井みちる（元生活保護利用者）『生活保護とあたし』著者）です。まずは和久井さんのこの記事を読み返していただければと思います。

いま政府はなりふり構わず生活保護費削減を進めています。そのため政策実施後には《餓死・孤立死・自殺・犯罪が増えるのが必至（※）》とさえ危惧されています（※2012年6月18日「生活保護問題対策全国会議」と「反貧困ネットワーク」が自民党の生活保護見直し案に対して提出した公開質問状から）。

しかし自民党は一貫してこの公開質問状を無視し続けています。

生活保護基準引き下げは生活保護利用者だけの問題ではありません。社会に広大な影響を及ぼす可能性が高いので



筆者

す。保護基準は何十もの制度（就学援助・住民税免除など）と連動しているため、一千万人以上ともいわれる主に低所得層の人たちに支出増・収入減をもたらすと予測されています。「STOP!生活保護基準引き下げ」アクション (<http://nationalminimum.xrea.jp>) はこのような「悪政」に対抗するネットワーク型の運動です。これまでデモ、厚労省前・首相官邸前などでの抗議行動、院内集会、シンポジウム、学習会、ロビーイング、ポスティング、ビラ配り、WEB広報などを続けてきました。

私（中村）がこの運動にかかわることになったのは、個人的な「ご縁」がきっかけでした。なかまや友だちが或る時期から「当事者」として声を上げ始めたのです。生活保護に関するステイグマ（編注：不名誉感・屈辱感）が強い日本社会にあつて、これはとても勇氣ある行動です。

さらに昨年春には自民党議員らが主導する悪辣な「生活保護バッシング」が開始されました。このような状況下で当事者が声を上げるのは、ときに「いのちに関わる」過酷なものになります。たまたま「そこ」に居合わせただけでも自分のできることを実行するしかない、そう思い至ったのです。

宇都宮健児さん（弁護士／前日本弁護士連合会会長）や湯浅誠さん（活動家）も指摘されていますように「貧困」と「戦争」には密接な関係があります。平和を守り、戦争を起こさせないためには、貧困が根絶される必要があ

今年3月6日の「STOP!生活保護基準引き下げ」アクションによる国会請願デモ。先頭向かって右側から雨宮処凛さん、宇都宮健児さん、河添誠さん（筆者撮影）



ります。けれども現在、いのちと尊厳を蔑視する「政治」が横行しています。福島の問題、沖繩の米軍基地問題・生活保護バッシング・憲法破壊……。

人権・国民主権・平和主義を敵視する「政治家」たちが跳梁跋扈しています。こんな悪政には断固として「NO!」を言いたい！

私たちは皆「いのちの当事者」です。いまこそ、いのちと尊厳を尊ぶ人たちの「つながり」をつくっていく時なのだと思います。お互いに根気よく一歩一歩進んでいきましょう。差別と戦争のない平和な社会をみんなで作っていきましょう。

今回「市民の意見」に拙稿を提出させていただいたのも新たなそして貴重な「つながり」でした。発言の機会を与えていただきまして、ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひします。

（なかむら・じゅん／「STOP!生活保護基準引き下げ」アクション）